

# 社会主義を経験したハラール産業の栄枯盛衰

## ——現代中国における伝統知の継承と断絶——

澤井 充生（首都大学東京）

中華人民共和国では、改革開放政策が導入された後、老舗のハラール産業（主に飲食店）が復活し、旅行ガイドブックで必ず紹介されるほど認知度が高くなっている。中国ではハラール（*halal*）は「清真」（*qingzhen*）と表現されることが一般的であるが、「清真」は中国各地でイスラームの食の規範を表す語彙として広く知られている。アメリカの文化人類学者 D・グラドニーが「清真」を回族のアイデンティティの表徴とみなし、「*pure and true*」と翻訳したように [Gladney 1991: 7]、回族の人々は日常生活のなかで「清真」という民俗語彙に対して「清潔性」・「真正性」・「優位性」などの意味を付与し、この用語をマジョリティとマイノリティを差異化する装置として使用している。

しかしながら、回族のハラール産業は現代中国において順風満帆に歩みを進めてきたわけではない。1949年に中華人民共和国が成立した後、回族の伝統的なハラール産業は中国共産党が発動した社会主義改造や政治運動によって大打撃を受け、事業主体や経営方針・形態などが根底から改革されてしまった。例えば、1950年代に社会主義改造が中国各地で展開されると、老舗のハラール産業は「公私合営化」を余儀なくされ、もはや私営企業ではなくなった。回族の創業者一族は「資本家」のレッテルを貼られ、経営権を外部者に奪われ、新規の国営企業の労働者へと身を落とした。毛沢東が東来順飯庄（北京市にある老舗のハラール飲食店）を訪問し、味の劣化を嘆いたように、老舗の伝統技法の継承は社会主義改造によって断絶されてしまったのである。このような事態は、「公私合営化」とその後の国営化による合理化・効率化の追求によってもたらされた結果である。

1978年に改革開放政策が導入された後、ハラール産業界に私営企業や個人経営の飲食店が数多く登場し、一部の老舗のハラール飲食店も営業を再開した。ところが、ごく一部の老舗飲食店を除けば、20年もの政治的混乱を経た後、老舗の伝統技法が忠実に継承されているとはいいがたい。北京市の場合、大多数の老舗のハラール飲食店は民営化されておらず、漢族主導の国営企業のままで、回族の創業者一族は自分たちの経営権を取り戻したわけではない（例えば、東来順、烤肉季、烤肉宛）。また、経済自由化の機に乗じて漢族（非ムスリム）がハラール産業へ参画するようになったのであるが、ハラール食品の取り扱いをめぐるトラブルがしばしば発生している（例えば、2000年に山東省で発生した陽信事件、2002年にフフホト市で発生した蒙

牛事件）。市場が開放された後、大都市にあるハラール飲食店のなかには、酒類を当たり前のように販売しながら「清真」の看板を掲げる店舗はいまや珍しくない。このように、中国国内では「清真」の真価や安全性をめぐって数多くの混乱が生じている。さらに、近年、東南アジアを起源とする、グローバル化するハラール認証制度 [Bergeaud-Blackler et al. 2016] が中国国内のハラール産業界に対して門戸開放という新しい問題を突きつけている。

歴史を紐解けばよくわかるのであるが、中国国内で回族が牽引していたハラール産業は社会主義改造を契機として急激な変容に直面せざるをえなくなった。1949年以前、中国国内ではハラール産業の市場は回民によって実質的には独占されており、漢人が参入することはほぼ不可能であった。例えば、ハラール肉の生産・販売・調理の場合、回民の屠畜業者がモスクの宗教指導者に家畜の屠畜を依頼し、回民の精肉販売業者がハラール肉を回民の屠畜業者から仕入れて販売し、回民の飲食店がハラール肉をシャリーアにのっとった方法で加工・調理していた。全体を俯瞰した場合、回民のハラール産業従事者は同業者同士の信頼関係に依拠してハラール性（*halalness*）を確保しようと努めていたのである。

本発表では、中華人民共和国成立後に時間軸を定め、まず、回族の伝統的なハラール産業が中国共産党主導の社会主義改造を経験したことでどのような変容にみまわれたのかを整理し、次に、改革開放期に復活したハラール産業（主に飲食店）が直面している諸問題を具体的な事例を示して説明し、最後に、回族のハラール産業にとってのハラール性（*halalness*）の意味を伝統知の視点から検討する。

### 参考文献

Gladney, Dru 1991 *Muslim Chinese*. Harvard University Press.

Bergeaud-Blackler, Florence, Johan Fischer and John Lever (eds.) 2016 *Halal Matters: Islam, Politics and Markets in Global Perspective*. Routledge.

キーワード ハラール、イスラーム、現代中国、社会主義、伝統知